

速報

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2013年(平成25年)

6月23日(日)

発行所 琉球新報社

郵便番号 〒900-8525

那覇市天久905番地

©琉球新報社2013年

戦の教訓 忘れない

戦後68年 摩文仁で沖縄全戦没者追悼式

遺族ら「基地強化懸念」



沖縄戦の犠牲者に黙とうをささげ不戦を誓う沖縄全戦没者追悼式の参列者

23日正午、糸満市摩文仁の平和祈念公園

沖縄戦で犠牲になった20万人余のみ霊を慰め、世界の恒久平和を誓う「2013年沖縄全戦没者追悼式」が23日午前11時50分から、糸満市摩文仁の平和祈念公園で開催された。公園には早朝から遺族が続々と訪れ、平和の礎に刻銘された戦没者の名前を指でなぞりながら語り掛ける遺族らの姿があった。平和祈願慰霊大行進は午前9時、糸満市役所を出発し、南部の激戦地を回った後、追悼式に合流した。

追悼式は午前11時50分に始まり、正午には参列者が、黙とうをささげた。式には安倍晋三首相、伊吹文明衆院議長、平田健一参院議長のほか、岸田文雄外相と小野寺五典防衛相、ルース駐日米大使が出席した。外相、防衛相の出席は初めて。

県遺族連合会の照屋苗子会長は「終戦直後の故郷は焦土と化し、遺族は励まし助け合いながら命を削る思いで生きてきた。現在の豊かな生活は諸霊の犠牲の上に築かれたもの」と戦没者を追悼。その上で「オスプレイが強行配備され、今年の夏、新たに追加配備するとなっており、断じて容認できない。世界一危険な米軍普天間飛行場の県外移設をも切望する」と求めた。仲井真弘多県知事が平和宣言を読み上げ、与那国町立久部良小学校1年の安里有生君が平和の詩を朗読した。

平和の礎に刻まれた名前に手を合わせる人たち＝23日午前7時39分、糸満市摩文仁



平和への願いを含め、全戦没者追悼式会場へ向かう平和祈願慰霊大行進の参加者＝23日午前9時すぎ、糸満市



平和の礎の刻銘を見て涙をぬぐう参拝者＝23日午前8時56分、糸満市摩文仁



壊れてしまった兄をしのび、供物をして祈る遺族＝23日午前9時半すぎ、糸満市摩文仁の師範健児の塔近く



慰霊碑に水をかけ、戦没者を慰める男性＝23日午前8時27分、糸満市の魂の塔